

|                 |      |    |       |    |
|-----------------|------|----|-------|----|
| 【担当教員名】<br>村山伸子 | 対象学年 | 3  | 対象学科  | 健康 |
|                 | 開講時期 | 前期 | 必修・選択 | 必修 |
|                 | 単位数  | 2  | 時間数   | 30 |

【一般目標：G I O】  
公衆栄養学Ⅰ、Ⅱ、公衆栄養学実習Ⅰ、Ⅱを通じて、地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報および住民ニーズを収集分析し、保健・医療・福祉・介護システムの中で、あらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。公衆栄養学Ⅱでは、公衆栄養マネジメントの基本的な理論と手法について学ぶ。特に、地域マネジメントの理論、地域アセスメント、評価の手法について、シミュレーションを行いながら、参加型で学ぶ。

【行動目標：S B O】

1. 公衆栄養マネジメントの概念と枠組みについて、イメージし、記述できる。
2. 地域栄養アセスメントにおいて、質的調査法（住民参加型でニーズを把握する手法）を理解し、使うことができる。
3. 地域栄養アセスメントにおいて、量的調査方法を理解し、使うことができる。
4. 栄養疫学を用いた、因果関係の把握ができる。
5. 公衆栄養全体計画に基づいた、事業計画が立案できる。
6. 公衆栄養全体計画の評価と、事業の評価をデザインできる。

| 回数 | 授業計画又は学習の主題                                                                    | SBO |           |
|----|--------------------------------------------------------------------------------|-----|-----------|
|    |                                                                                | 番号  | 学習方法・学習課題 |
| 1  | 公衆栄養マネジメントの概念、プロセス                                                             | 1   | 講義        |
| 2  | 公衆栄養の枠組みモデルと住民参加型の活動展開手法（地域づくり型、PPM、PCMなど）                                     | 1   | 講義        |
| 3  | 地域栄養アセスメントの手法①（住民ニーズ、QOLの把握：質的方法）                                              | 2   | 講義        |
| 4  | 地域栄養アセスメントの手法②（地域の健康・栄養状態、食事、食知識、食態度、食行動、食スキル、食環境、生活習慣、社会経済文化的環境、自然環境の把握：量的方法） | 3   | 講義        |
| 5  | 栄養疫学① 栄養疫学の概要、食事摂取量の測定方法（秤量法、24時間思い出し法、食物記録法、食物摂取頻度法、生化学的指標、身体計測値など、妥当性と信頼性）   | 3,4 | 講義        |
| 6  | 栄養疫学② 暴露情報としての食事摂取量：①食事・食物・栄養素、②食事の個人内、個人間変動、③日常的平均的な食事摂取量                     | 3,4 | 講義        |
| 7  | 栄養疫学③ 食事調査結果の分析・評価法（総エネルギー摂取量の栄養素摂取量に及ぼす影響を含む）                                 | 3,4 | 講義        |
| 8  | 栄養疫学④ 各要因間の関係の分析方法                                                             | 3,4 | 講義        |
| 9  | 栄養疫学⑤ 疫学の方法を用いた集団の栄養状態のアセスメントと評価（研究デザインと根拠のレベル）                                | 3,4 | 講義        |
| 10 | 公衆栄養全体計画と事業計画への展開（課題、目標の優先順位の決定）                                               | 5   | 講義        |
| 11 | 公衆栄養プログラム（事業）の実施過程のマネジメント（地域資源のマネジメント、コミュニケーションの管理、行動科学理論の応用）                  | 5   | 講義        |
| 12 | 評価とモニタリング手法（プロセス評価）                                                            | 6   | 講義        |
| 13 | 評価とモニタリング手法（影響、結果評価、行政評価、経済評価）                                                 | 6   | 講義        |
| 14 | 自己評価と学習したこと意見交換                                                                | 1-6 | ディスカッション  |

| 【使用図書】 | ＜書名＞                                     | ＜著者名＞                 | ＜発行所＞ | ＜発行年・価格・その他＞ |
|--------|------------------------------------------|-----------------------|-------|--------------|
| 教科書    | 公衆栄養学（出版社未定）                             |                       |       |              |
|        | 栄養疫学                                     | 坪野吉孝、久道茂              | 南江堂   | 2001年        |
| 参考書    | 食事調査のすべてー栄養疫学ー                           | Willett W.            | 第一出版  |              |
|        | 食事評価法マニュアル                               | Thompson FE, Byers T. | 医歯薬出版 |              |
|        | Evidence-based Nutrition EBN栄養調査・栄養指導の実践 | 佐々木 敏                 | 医歯薬出版 |              |
| その他の資料 |                                          |                       |       |              |

|                                    |                                           |
|------------------------------------|-------------------------------------------|
| 【評価方法】                             | 【履修上の留意点】                                 |
| 出席 20 %<br>積極的参加 20 %<br>期末試験 60 % | 参加型の講義形式であるので、積極的に参加すること。論理的に考えることに慣れること。 |